

(5) 福祉でまちづくり部会



1. 福祉でまちづくり部会の趣旨

福祉でまちづくり部会では、地域市民の皆さんと「福祉」をひとつのビジネスとして考え、観光や地場産業と連携して新しい提案をしていく観点から検討を重ねました。

人、もの、お金の動く仕組みを考え、福祉の視点から地域を活性化するための新しいビジネスモデルが提案されました。

地域の皆さんを始め、NPO、事業所、企業、社会福祉協議会、行政、各々一人一人が役割を持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりに取り組むことが重要との意見が出されました。

2. 福祉でまちづくり部会の経過

① 第1回 6月22日(月) 19:00~21:00

第1回目は、参加して頂いた皆さんに自己紹介と合わせて「私が暮らしやすいまち」「5年後、10年後どんなまちに住みたいか」というテーマでお話をして頂きました。皆さんの多くのご意見の中から、私たちが住みたいと思うまちを実現する上で今後の課題となるいくつかのキーワードが出てきました。

- 居場所 (高齢者の居場所、元気に働ける場所)
- つながり (人や地域とのつながり、観光と福祉の連携)
- ふるさと (まちづくりの基準はふるさと、最後まで生きるまち)
- 役割 (誰かの役に立っているという実感)
- 生活支援 (歩ける範囲が生活圈になる、誰にでも関係のあること)
- 安心 (高齢者が元気に暮らせる仕組み、やりたいことや夢が持てる)

高齢者が元気に働ける場所、人や地域とのつながりが感じられる場所が必要など、役割を持って誰もが楽しく暮らせる仕組みづくりについて意見交換ができました。

② 第2回 7月22日(水) 19:00~21:00

第3回 9月2日(水) 19:00~21:00

第2回目は、第1回目の今後の課題キーワードをもとに、新しいビジネスモデルを提案するため、楽しくグループワークを行いました。「地域の中にある社会資源(活用できる人、もの、仕組みなど)」「私たちにできること」をカードに書いて紙に張り出し、人・もの・お金の動くしくみと流れを整理してつながりを示しました。

第3回目は、各グループで提案したビジネスモデルをより具体的に、実現するためにすべきことについて話し合いました。

各グループから提案された「“半田方式”のビジネスモデル」については、本計画の54～55ページをご参照ください。

③ 第4回 10月7日(水) 19:00～21:00

第4回目は、第3回目までに考えてきたビジネスモデルを実際にも実現するために誰がどんな役割を担うべきか、私たちに何ができるのかを具体的に考えて頂き、意見交換を行いました。

役割分担を考えていく中で、誰が休耕地を探すのか、誰が料理をするのか、誰が串あさりを作るのか、誰が販売するのか、地域を巻き込んだ役割分担について話し合いました。

地域の人・NPO・市民活動団体・事業所・企業・基金団体・社協・行政など、実際にやるべきことについて誰がその役割を担うべきかを考えていきました。

地域

- ・ 空き家、空き店舗を探す
- ・ 休耕地を探す
- ・ 地域住民を募る
- ・ 最終的な運営



自治区

- ・ 高齢者を募る(老人会)
- ・ 高齢者を募る(町内会)
- ・ 地域住民を募る(回覧板)

NPO法人

- ・ 企画をする
- ・ モデル事業(助成)

事業所・企業

- ・ 空き家、空き店舗を探す(不動産屋)
- ・ 高齢者を募る(退職者)
- ・ 休耕地を探す(JA)
- ・ 障がい者を募る
- ・ 資金調達(融資、助成)

各種ネットワーク

- ・ 企画(NPO、事業所)
- ・ 運営(核の立ち上げ)
- ・ 情報収集、情報交換(安心できる)
- ・ 情報発信(新聞、メディア)



学校(保育園)

- ・ 障がい者を募る
- ・ 高齢者を募る(孫つながり)
- ・ 地域住民を募る(ママ友つながり)
- ・ 学生を募る

社協

- ・ 障がい者を募る
- ・ 高齢者を募る(老人クラブ)
- ・ 情報発信(ホームページ等)
- ・ 情報収集